

拡大する福祉部活動

45団体に5人に寄金贈呈

大崎
タイムス
「善意の章」は2団体3人

大崎タイムスは六日、古川市保健福祉プラザで二〇〇五年度福祉寄金贈呈式を開き、福祉施設やボランティア団体、学校など四十五団体と五人に総額百二十万円を贈った。また、地域の社会福祉に深い理解を示し、地道な活動を続けている人などを顕彰する「善意の章」は二団体と三人に贈呈した。

贈呈式では、はじめに本社伊藤卓二代表取締役社長があいさつし、昨

年は新潟県中越地震で大きな被害を受けた小千谷市に四百万円を超える義

援金を届けるなど、本社

福祉部の活動が拡大していることを説明。

そのうえで「大崎の善意が新潟県民にも通じた」と思っている。今後も大

円を贈ることも紹介した。

本社福祉部配分委員会

と胸に刻み、さらに新し

の伊勢行雄委員長が本年度の贈呈先および金額を決定した経緯を説明した

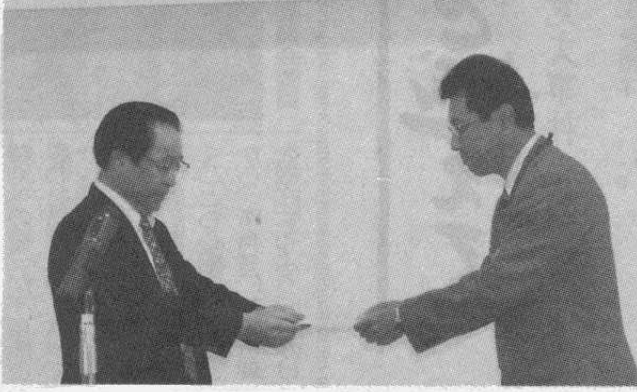
後、伊藤社長が贈呈先の代表と「善意の章」受章者一人ひとりに寄金や表彰状などを手渡した。

これに対し、「善意の章」が贈られた団体、個人を代表して宮城シマダヤの伊藤徳義代表取締役が「この光栄をしっかりと胸に刻み、さらに新し

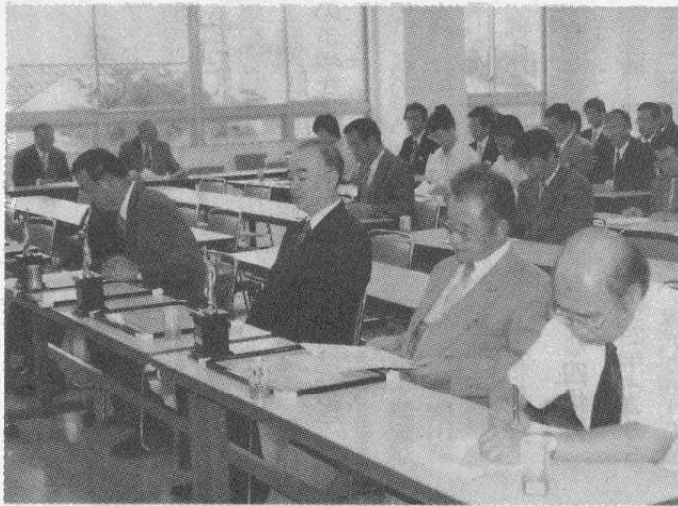
た、歳末たすけあいの一環として、大崎管内の福祉施設にうどんなどを贈呈。新潟県中越地震の際には稲庭うどん五千六百食を被災地に贈った。

年度 福祉寄金並びに「善意の章」表彰式

(株)大崎タイムス社福祉部



伊藤社長(左)が寄金を贈呈



い気概を持って社会福祉に協力していきたい」と謝辞を述べた。

「善意の章」受章者と配分委員会委員や本社役員

平成17年度 福祉寄金並びに「善意の章」表彰式

(株)大崎タイムス社福祉部



▽伊藤栄喜(古川) 古川東中教頭を最後に教職を退くと同時に古川剣道クラブを創設し、後継者に引き継ぐ今年六月までの二十四年間に、子どもたちを指導。剣道を通じて青少年の非行防止、健全育成に尽力した。

▽大崎仁治(古川) 自動車教習センター代表取締役。II優良ドライバーの育成に努める傍ら、地域奉仕に尽力。大崎地方の経営者らで組織するボランティア団体「虹の会」では元会長を務め、本社福祉部にも毎年善意を寄せている。

各団体などの代表などが出席して開かれた贈呈式

「善意の章」受章者は次の通り。(敬称略)
▽伊藤徳義(宮城シマダヤ代表取締役) II 毎年交通安全運動に合わせて「交通安全箸(はし)渡しキャンペーン」を展開し、事故防止を啓発。また、各団体などの代表などが出席して開かれた贈呈式